

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

企業理念

「－B E I N G－存在しつづける」を掲げ、「会社をつくる。人間をつくる。社会をつくる。」のもと、リアルロジスティクスの体現を目指す。

新規業務開始数
4～8件/年

温室効果ガス削減
48%

温室効果ガス削減
80%

月間時間外労働
70時間以内

2 中長期の経営戦略

1. 3PL事業への転換

卸売業者の下請けから小売・卸売業者向け3PL事業者へ移行。1：Nの全体最適な消費者向け物流サービスを提供。

3. 「運ばない物流」推進

独自ビジネスモデルで既存エリア内の受託業務拡大と既存顧客シェアアップに注力。関東から全国への展開を見据えた基盤拡大。

2. 物流プラットフォーム化

サプライチェーン全体デザイン力を拡充。データネットワークセンター構築とDXプラットフォーム提供で業界のプラットフォームを目指す。

4. 物流DX化による生産性向上

自社開発システム「Jobs」を活用。物流データの蓄積・分析で生産性向上と原価コントロール徹底により利益率向上を実現。

3 対処すべき課題

① 成長率確保・利益率向上

- ・3PL市場は成長市場。年間4～8件の新規業務開始で成長確保。
- ・燃料費・人件費上昇に対し、Jobs活用で生産性向上と原価コントロール徹底。
- ・既存エリア内シェアアップと全国展開による基盤拡大。

② 技術革新・デジタル対応

- ・AI・IoT・自動運転など物流業界の転換期に対応する先行投資。
- ・小ロット多頻度化への対応として在庫管理の全体最適化を構築。
- ・消費データの蓄積・分析による地域在庫管理体制構築。

③ 人材育成・労働環境改善

- ・集合研修・オンライン研修・eラーニングで育成環境整備。
- ・マネジメント、リスク・コンプライアンス、自立成長教育を実施。
- ・2025年度より月間時間外労働70時間以内を目標に2024年問題対応。

面接で使えるポイント

- ・3PL市場規模10兆円超え。成長市場で『小売ビジネスの物流プラットフォーム』を目指す事業展開に参画できる。
- ・データネットワークセンターとDXプラットフォーム構築で、運ぶだけでなくデータで付加価値を生む物流を実現。
- ・2050年カーボンニュートラル目標で、2030年度に温室効果ガス48%削減。持続可能な社会実現に貢献。

証券コード 9145

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）

－（推移を描ける期数の開示がありません）

要するに
石川県金沢市に本社を置く陸運業企業

主力事業・セグメント

・陸運業（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

・将来性評価は晴れ時々曇り

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高
335億円

営業利益率
6.9%

財務健康度
47点 / 100点

将来性 晴れ時々曇り / 就活偏差値 48.3（当サイト算出の参考指標）

平均年収
657万円

陸運業内 30位/57社

平均年齢
47.2歳

陸運業内 13位/57社

平均勤続
12.5年

陸運業内 47位/57社

女性管理職
8.1%

陸運業内 15位/46社

男性育休
0.0%

陸運業内 44位/44社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース＋一言

